

## 第2章 生涯を通じた歯科保健の現状と対策

### 1 乳幼児期(0～5歳)

#### 目指す姿

- ◎ **楽しく食べる習慣や望ましい生活リズムを、家庭を基盤に身につける**
- ◎ **よく噛む習慣、歯みがき習慣を身につける**

#### 現状

～平成23年度市民アンケート結果及び各種保健統計より

##### ☆健診率

- ・3歳児の1人平均むし歯数は0.40本、むし歯がある児は12.7%で、年々減少傾向にあり、県の平均と比べると少ない状況です。(図1)
- ・1歳6か月児歯科健診では、希望制でフッ素塗布を行っており、受診者に対する塗布率は97.1%です。

##### ☆歯みがき

- ・保護者が毎日仕上げみがきをしている児は、1歳6か月児で78.4%、3歳児で87.0%、4歳児で68.5%となっています。(図2)

##### ☆おやつ

- ・幼稚園・保育園が休みの日に、1日2回以上おやつを食べている児が、65%以上います。さらに3回以上食べている児は9.4%となっています。
- ・家庭でよく食べるおやつは、「チョコ・あめ・グミ」が65%と一番多く、続いて「スナック菓子・ビスケット」「せんべい類」となっています。
- ・保護者からみてよく噛んでいる、またはどちらかといえば噛んでいる児は69.2%となっています。(図3)

##### ☆予防

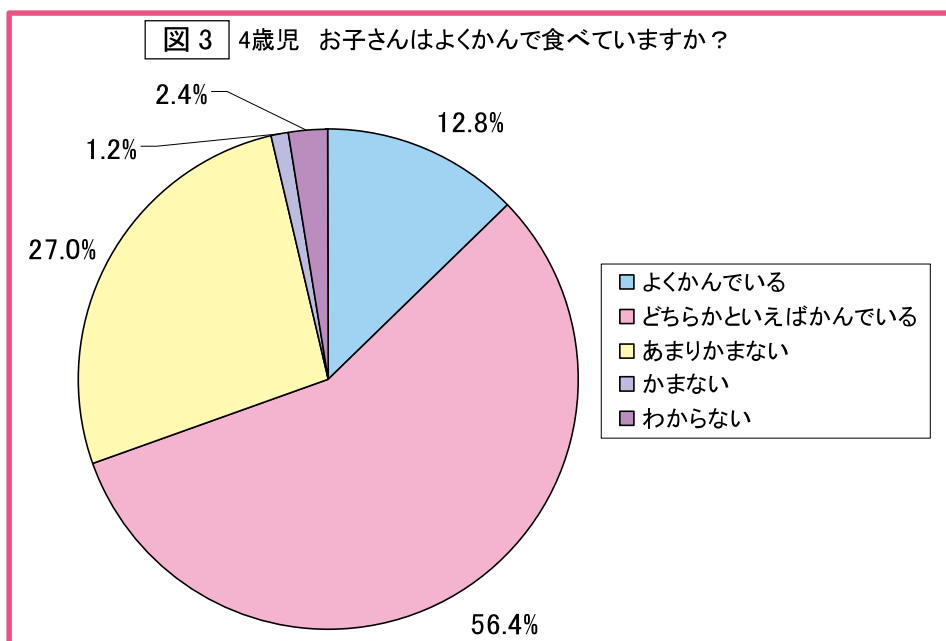
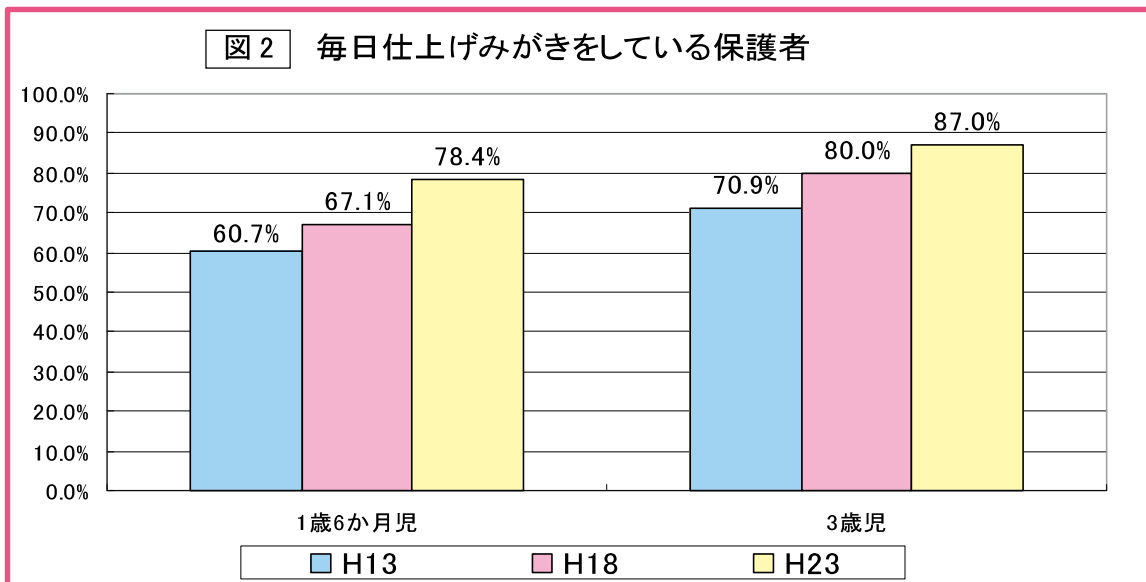
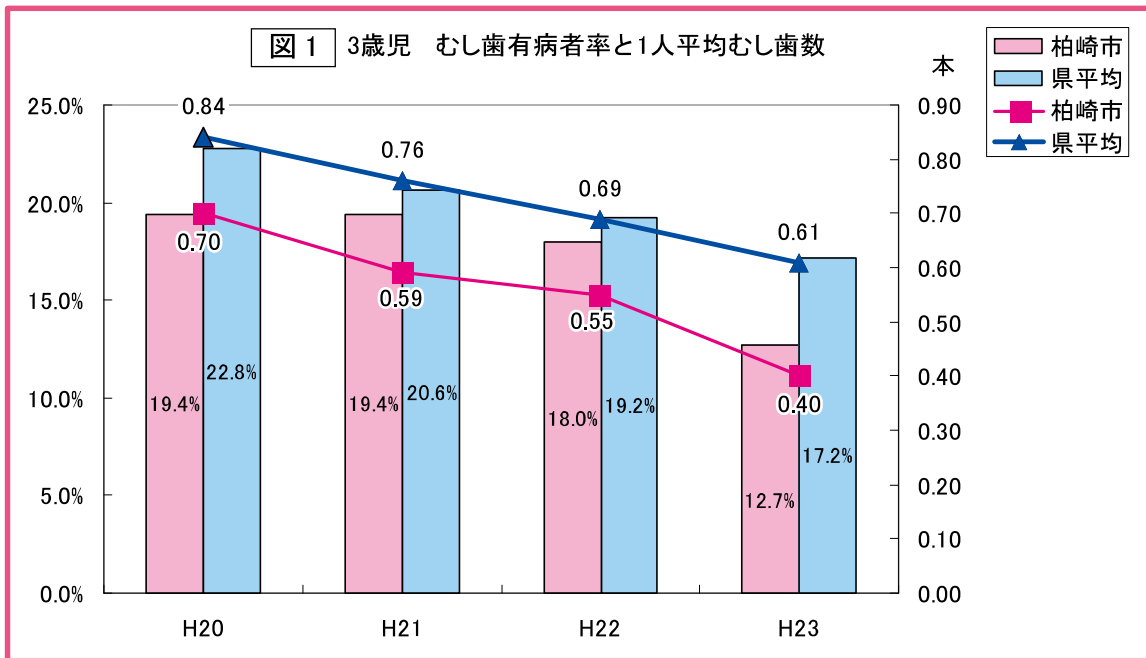
- ・4歳児の80%はフッ化物塗布を受けたことがあり、自分の子にフッ化物によるむし歯予防をしたいと思っている保護者が80%います。

##### ☆受診

- ・子どもを歯科医院へ連れて行きづらいと感じたことがある人は約半数いました。その理由として最も多いのは、「子どもが怖がったり泣いたりするから」ということがわかりました。
- ・歯科医院への受診は「健康診査の結果、歯科医院へ行くように言われたら連れて行く」が54.2%と最も多く「定期的に連れて行く」は27.4%にとどまっています。

##### ☆要望

- ・子ども達のむし歯予防を行うとよいと考えている保護者が62.7%います。



**市民の声****\* 障がい児を持つ親の会 \***

- ・ 受診しやすい、保健指導が受けやすい環境を整えて欲しい。
- ・ 歯科矯正に関心がある。
- ・ お菓子はいつから与えてよいのかなど生活習慣に関する目安の情報を知りたい。
- ・ 開業医で障がいがあってもOKだよということが知りたい。
- ・ 小さいうちに歯科医院に慣れたほうがいい。
- ・ スムーズに診療できないと、親のほうが気になってしまう。
- ・ 歯科の情報入手は口コミ。
- ・ 歯みがきの仕方がわからない。
- ・ 子ども達にどうやって教えたらよいかわからない。

**\* ワーキング部会 \***

- ・ 全体的に乳幼児期の歯みがきは定着しているものの、少数ではあるが、極端に衛生状態の悪い児が見られる。
- ・ 定期検診の意識は低い。歯が痛くならないと受診しないのが現状。
- ・ 歯の健康と生活習慣（食べ物、食べ方、寝る時間など）とが結びついていない。
- ・ 家族と一緒に食事をしているのかなあ。
- ・ 3歳児健診以降、保護者同伴の歯科健診がない。継続して機会があるといいな。
- ・ 幼稚園、保育園から帰宅後、夕食までのおやつの内容が心配。
- ・ 歯科医師との距離感が縮まるといいな。
- ・ 家族で食べて、歯みがきしよう！
- ・ 子どもを泣かせてみがかくことに抵抗があるのでは。

**\* アンケート自由記載 \***

- ・ 子どもや親と一緒にもっと歯について知る機会があるといい。
- ・ フッ素の助成をもっとしてもらいたい。
- ・ 自閉症児を受け入れてくれる歯科医院の情報を公開してほしい。
- ・ 仕事でなかなか休みが取りづらく、子どもを歯科医院に連れて行けない。
- ・ 歯に関しては知識が乏しいと思った。

## 現在の取組

### 【幼稚園・保育園】

- ・ 歯科衛生士による歯みがき指導
- ・ よく噛む習慣づくり
- ・ 給食後の歯みがき
- ・ 毎月18日は「いい歯を応援する日」と設定し、園ごとに取組。

### 【行政】

- ・ パパとママの子育てセミナー
- ・ すくすく広場
- ・ 1歳6か月児歯科健診、フッ素塗布事業
- ・ 2歳児子育てと歯科相談
- ・ 3歳児健診
- ・ 子育て講座
- ・ 園への歯科健康教室
- ・ 園児定期歯科健診
- ・ よい歯の園表彰
- ・ 歯科保健指導者研修会
- ・ 障害児歯科保健推進事業（県事業）
- ・ 歯の健康展
- ・ 健康まつり
- ・ 歯科休日急患診療



かみかみ給食

### 「かみかみ給食」

よく噛んで食べることを意識できるような食品（豆や乾物、野菜など）を使ったり、切り方や調理方法を工夫した献立になっています。

保育園：いい歯を応援する日



元気館：ニコニコ歯磨き

## 課題

- ・歯や口の問題はすぐに健康に影響がでないと感じているため、なかなか歯みがき習慣や食習慣などの改善につながりません。
- ・乳幼児期は子ども自身がおやつ等をコントロールすることが難しいため、保護者をはじめ、家族へ啓発していく必要があります。
- ・甘いおやつが多いことにより、三食しっかり食べるなどの基本的な食習慣が崩れかけていることが考えられます。
- ・小さいころからの定期受診で歯科医院に慣れていくことや、定期的に受診することが必要であることを理解してもらうことが大切です。
- ・障がい児に対応してくれる歯科医院はどこかなど、必要な情報が必要な人に行き届いていないため、情報の提供や、相談・受診しやすい環境づくりが必要です。

## 指標と目標値

◎3歳児でむし歯がない児の増加	87.3%	⇒	90.0%
◎大人が毎日仕上げみがきをする割合の増加	1.6歳児	78.4%	⇒ 増加
	3歳児	87.0%	⇒ 増加
	4歳児	68.5%	⇒ 増加
◎よく噛んで食べている児の増加（4歳児）	69.2%	⇒	83.0%

## ～乳歯がむし歯になると～

乳歯のむし歯は永久歯に比べて進行が早いです。乳歯がむし歯になると、食べ物をしっかり噛めなくなったり、うまく発音が出来なくなったりします。また、乳歯のすぐ下には永久歯が育っているため、永久歯の歯並びや歯の質にも影響を及ぼすことがあります。

「乳歯は生えかわるから・・・」とそのままにせず、早めに歯科医院で診てもらいましょう。



乳歯を守ろう！

## 対策

<p>私や家族が 取り組む こと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食べたらみがく習慣をつける。</li> <li>○親子で仕上げみがきをする。</li> <li>○おやつ<sup>の</sup>量や回数を決めて食べる。</li> <li>○甘い飲み物はできるだけ飲まない。</li> <li>○食事をよく噛み、家族で楽しく食べる。</li> <li>○家庭で「健口<sup>けんこう</sup>デー」を設定し、歯みがきやよく噛むことなどについて家族で取り組む。</li> </ul>
<p>地域が取り 組むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の活動と連携し、家族で取り組んで欲しい歯や口の健康に関する話題や情報を提供する。</li> <li>○食生活改善推進員や栄養士会から「歯によいおやつメニュー」を紹介する。</li> </ul>
<p>関係機関が 取り組む こと (園、学校、歯 科医院、職場、 施設など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園・保育園の給食便りで「いい歯を応援する日」のメニューや手作りおやつを紹介するなど、啓発の充実を図る。</li> <li>○保護者と一緒の活動の中で、歯みがきやよく噛むことなどを啓発する。</li> <li>○親子で気軽に受診や相談ができる歯科医院づくり。</li> <li>○歯科医院で保護者に対し、仕上げみがきの必要性や方法を指導する。</li> <li>○歯科医師が障がい児の歯科治療に対する理解を深める。</li> <li>○新潟県歯科医師会認定障害者診療医*を増やす。</li> </ul>
<p>行政が取り 組むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園・保育園での歯科健康教育を継続して実施する。親子歯科健康教室では仕上げみがきの必要性や、子どもの頃からの歯科受診の大切さを伝える。</li> <li>○乳幼児歯科健診における親子での歯みがき指導を継続して実施する。</li> <li>○フッ素塗布事業を推進し、フッ素塗布の効果について周知していく。</li> <li>○家族で取り組む「健口<sup>けんこう</sup>デー」を推進する。</li> </ul>



## \*新潟県歯科医師会認定障害者診療医\*

新潟県歯科医師会では、新潟県歯科医師会認定障害者診療医養成事業を行っています。平成23年度は、県内26の歯科医療機関が認定を受けました。障がい児(者)の歯科治療の窓口となる歯医者さんです。